

ひろば大代

NO.180

大代公民館

―第九回―

「都市とふる里を

結ぶ交流会」のご案内

大代高山会々長 渡 吉正



九年目の交流会の開催を理事会、代議員会を開催して次のように決定しました。

期日 八月十五日(日)

場所 大代公民館広場並びに大代中学校屋内体育館。町内の社寺

日程

〔第一部〕

○六時～十一時

交流マラソンソフトボール大会

○九時～十一時

大家郷史跡めぐり(社寺や遺跡)

(案内人)郷土史研究者 渡 吉正

○十一時～十一時二十分

開会行事

○十一時二十分～十二時

小笠原近重流田植囃公演

文化財愛護少年団(大代中学生)
○十二時～十三時

講演「大家の中世史」

郷土史研究者 渡 吉正

○十三時～十五時

交流懇談

ソーメン流し(昼食)

但し先着三百人まで(無料)

〔第二部〕

○十八時～二十時三十分

大代高山神楽公演

大代高山神楽社中

○二十時三十分～二十時三十分

納涼盆踊り大会

大代青年 なつみ会

※なお共賛行事として婦人会となつみ会による「屋台」を開催致しますので大いにご利用下さい。

今年都市交流事業内容を見直して年代別の行事を考案企画しました。

(イ)社寺や遺跡めぐり(ロ)郷土史の講演会など、そして別途会費なしで(ハ)ソーメン会食(ドなたでも無料で提供、但し先着三百食に限る)できます。

本年も盛大な交流会を催す事が出来ますように、町内の皆様方のご協力ご

支援をお願い致します。

第三回関西高山会総会を終わって

―なにわの空に響く―

ふる里の盆踊り―

関西高山会事務局長 中本 弘

「ヨサーヨイセイエノ・ヨイヤサノセー」まだ盆まで間がある盆踊りの曲が、ここ大阪、なにわの空をこだまする。その曲に合わせて大代高山会長を始め、大代町から来阪された方々の踊りが始まる。そのうち遠くふる里を離れ、長く都会生活の中において忘れかけていたふる里の盆踊りを囃しにせきたてられ、手振り、身振りが始まり、会場で輪になり見よう見真似で踊る「輪になって」「和になって」……
関西高山会総会、懇親会のフィナーレの情景である。
「スズメ百まで踊り忘れず」という諺がある。遠い幼ない時分に大家の町で八月十五日になれば盆踊りがありその時に踊った記憶が甦り、そうだからすぐ盆踊りの手振り、身振り等ればとすぐ盆踊りの手振り、身振り等そのノリを思い出す。どの顔も満足だ

という表情である。

良かった、本当に良かったと企画した役員一同にも安堵の声、顔があった。更に大代の先祖の方々のご供養が一緒に出来たという意味は大きかった。

さて年に一度の総会に大代町から渡公民館長、市原市会議員及び後藤婦人会長様をはじめ十三名の方々、東京石見高山会から渡俊則前会長を始め四名の方々のご臨席を頂き、三時間余り盛り上がり放してあった。

一方料理は新北京という大阪では老舗の中華料理店、その料理の品々は店長も腕によりをかけ「頑張りまっせ」という言葉通り美味しかった。その証明にほとんどお皿の料理は残っておらず、店長いわく、これを見た調理人は泣いて喜ぶと感謝の言葉を聞いた。最後のデザートはまだ今年は珍しいスイカであった。味よし懇親会の盛り上がり良しでその目的を達することが出来たとほっとした。

さて来年の第四回関西高山会総会は六月十一日、場所は新北京と決定したので、新役員一同、新しい企画を考えますので御出席方お待ちしております。

関西高山会に出席して

榎 花田時子

大代生まれではない私が関西高山会に出席させて頂くのも、何か気恥ずかしいことですが、今ふる里大代を守って居る者の一人として出席させて頂きました。

会長さんの挨拶にふる里を同じくする者が夢とロマンを求めて云々とありました。

事務局長さんからは私達母、子、孫三代が出席していると皆さんに披露され、面映い事でした。

近所に住んでおられた叔母さん、あそこの息子さん、娘さん、又誰かさんのお兄さん、妹さん等々沢山出席されていて、ふる里の話しに花を咲かせ、料理の味もうわの空で楽しい一時を過ごさせてもらいました。

来年も六月十一日「ここ新北京で逢いましょう。」と堅い約束が出来て、お土産までもらって帰ってまいりました。お世話下さった方々本当に「本当に御苦労様でした。」有難うございました。

記念樹手植松の保護について

植松 渡 吉正

(ア)東宮殿下(大正天皇)の御手植松 明治四十年(一九〇七)五月二十九日、東宮殿下は山陰行啓の途上で大家尋常高等小学校(大代小学校の前身)の御便殿(宿舎)へお泊まりになり記念に松を御植樹なさいました。

松は黒松で現在、幹が目通り(目の高さ)で周囲は一三六センチあり、樹高が凡そ二〇メートルに及びます。

近年、松は上部の枝の伸びが異状で葉が繁り過ぎてバランスを崩し、全体にやや南寄り傾いています。そして松の囲い柵(石製)は破損しています。これはいま養生しないと台風や雪などの影響で倒木の恐れがあります。それに剪定を加え、柵を再建し、説明板に標柱を付設したら立派な記念樹となります。

現在、大田市下で大正天皇の御手植松は恐らく残存して居るところは他にないように思います。

(イ)奥田義人文部大臣の手植松

大家来村は明治四十年(一九〇七)

五月初旬（日にち不詳）に東宮殿下行啓に際しての状況視察でありましたが用務は奉迎委員と学校関係者に対する訓示であったようです。

そして再度の来訪は大正二年（一九一三）九月六日で、目的は不明ですが渡淳次郎宅（本渡）で昼食をとられています（渡寛「備忘録」に記載あり）
その時、大家尋常高等小学校の校庭南側に植樹されました。現在、記念樹黒松は幹の周囲は一七三センチで樹高は凡そ二五メートルもあります。松はよく育っていますが、やはり標柱に説明板を加えれば更に引き立ち保護柵の役目を果たします。

他に東郷平八郎（海軍大将、大正天皇行啓時の随行員）、大島久直（陸軍大将）、福島安正（陸軍大将、シベリア横断三千里を果たした人）の手植松がありました。松くい虫の害で伐採の余儀なくに至りました。

残った記念樹を保護するためにも松を消毒することが必須の条件で急がねばなりません。記念物は町民の文化です。周辺の草取りなどを励行して害虫から護り美しく育てましょう。

—大代の古跡をたずねて—

今西山大嶽城跡（上市の巻）

植松 渡 吉正



子供の頃、月遅れの桃の節句（四月三日）にはご馳走を重箱に詰めてもらい風呂敷包みを提げて、皆思いのグルーブで見晴らしのよい野山へ出掛けて行き、ご馳走を頂いたものです。当時はこの日が年中で一番のご馳走日、各々持って来たものを皆で分け合って頂き、山から山へ手旗信号を送って一日中遊んだ楽しい思い出があります。

節句の日が晴れだとよく城山に（大嶽城跡）の頂上に登ったものです。戦時中（太平洋戦争）は国民学校が借用した畑が北側の山麓にあつて（県道から見える所）初秋には学校から芋（さつまいも）掘りに出掛けました。畑やその周辺からは黒焦げの焼米（戦国時代落城時のもの）が出土していました。時には寛永通宝（江戸時代の銅銭）や十手（江戸期の捕り方の武具）な

どが出たこともありました。
拙宅（本渡）の前庭（南側）の中央部には城山の頂上から降ろした鎧掛けの岩（四日市の故渡利熊市さん達が運んだ）が据っています。

戦国時代は今西山の城主は大家元広だと伝えられていましたが「石見誌」には大江信濃守光廣と載っています。光廣は大江氏の末裔（毛利元就—穂田元清—秀元—光廣）ですが、今後研究を要します。

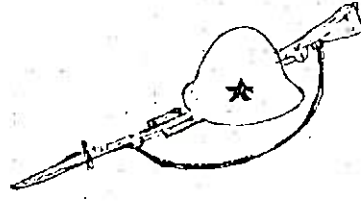
石清水八幡宮の創立期天文三年（一五三四）の棟札（大田市指定文化財）には今西山の城主は「藤原兼公」と墨書してあります。

また「石見誌」には飯田村城主「大嶽城」以前の名称は天文二年（一五三三）に大内氏の銀山奉行だった飯田石見守春景（飯田氏の祖先）」と載せてあります。

それから十二年後の天文十四年（一五四五）の八幡宮の棟札には領主は既に小笠原長徳（小笠原家十三代目邑智郡川下村土居城々主）に替っています。今西山の大嶽城々主藤原兼公は既に滅亡（宅野村の韓島で切腹したという説

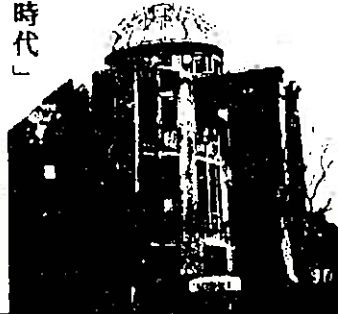
～していました。
秋になれば城山へ探検登山をと思
います。皆さんも一緒に如何ですか。

戦争体験記



「わが少年時代」

下市 市原仁郎



私の父英文が県庁に奉職していた為
私は少年時代を松江で過ごした。小学
校（当時は国民学校と呼んでいた）は
内中原、中学校は松江中学である。以
下思いつくまま記して見たい。
昭和十六年十二月八日、太平洋戦争
（当時は大東亜戦争）に突入。この日
全校児童が校区の八幡神社へ必勝祈願
に行った。小学校五年の時である。

昭和十八年四月、松江中学に入学。

二年になると勤勞奉仕と言って松江近
郊の農家へ稲刈りに行くようになった。

又浜田水害の時には今の金城町へ泊
まり込みで農家へ分宿、朝から晩まで
田に埋まった土を取り除く作業をした。

若者が戦場へ／＼と送られて行った
ので、学生が動員されたのである。

戦時中は食うものがなかったので「
ぜんざい」が非常に美味しかったのを
覚えている。団子の味噌汁も美味しか
った。

三年になると学徒動員と言って、学
校へは行かず工場で働く事になった。
松江の東本町の先の方にある中村造船
所で松江中学、松江工業、津和野中学

隠岐の神官学校の生徒が動員された。
胸には木綿の白い布に

と書いて縫い付けていた
米の特別配給もあり、賃
金も貰ったように思う。

私は製材工場へ配置され、ここで煙
草を吸う事を覚えた。当時は煙草も仲
々手に入らず、松葉の茶色いのを紙に
巻いて吸った覚えがある。

製材工場の中に地下の防空壕があっ

た。米子方面より敵機が来襲した事が
ある。その時私は工場の入口へ出て上
の方を見ていた。すると、「ダ、ダ、

」と機銃操射され、命からがら地下壕
へ逃げた。履いていたズック靴が足か
ら抜けてしまっていた事を覚えている。

工場通いの合間に家屋疎開にも動員
された。松江の天神さんの脇を山陰本
線が走っているが、その近くで作業し

ていた時、列車の窓から私らと同じ位
か少し上位の少年兵（予科練か水兵か）
が懸命に声を上げながら手を振って
いた事を思い出す。お国の為に頑張ろ
うという事だ。

日本国家と天皇陛下の為に尽くす事
が国民の義務であるとの戦時教育が徹
底していた。誰もが軍国少年であった。

私の同級生も陸幼や甲種飛行予科練
習生（予科練）へ行った。予科練の募
集は、松江中学、松江工業、松江商業

松江農林へ人数の割り当てがあり、柔
道場と剣道場へ集められ、一人ひとり
聞かれた。

「私も行きたい」と言うと「お前は海
兵の予科へ行け。」と言われ、軍隊の
味を知る事が出来ない事になった。

味を知る事が出来ない事になった。

私の兄宗夫は松江商業から陸軍少年飛行兵学校へ入った。滋賀県の大津の学校へ行く時、松江駅には伯父と従兄が送りに来て、何故か父母は居なかった。駅頭では同級生を軍隊へ送る為に別れを惜しむ生徒がオールマン（旧制中等学校卒の人でないといけないと思うが、応援をする為の踊り）をして群がっていた。列車が発つと私はポロポロと涙した。血を分けた兄弟の情であろうか。

昭和二十年八月十五日正午から天皇陛下の玉音放送を、家屋疎開に動員されていた私らは松江市石橋町の浄土寺で聞いた。

軍国少年であった私は、友人らに「竹槍を持ってでも敵と戦わねばならないのではないか。」と言った事を思い出す。

実は前の日、近くに住んでいた現山陰中央新報の記者であった雲田鎌介氏からの情報、そして、「日本は負けた様だ。」と父を通じて聞いていたが、半信半疑というより有り得ぬ事と固く信じていたと思う。陛下の玉音は雑音が入り、よく聞き取れなかった様に思

う。

戦争が終わり、燎原の火の如く燃え上った労働運動、農民運動と軌を一にして学園にもストライキの波が押し寄せた。県内のトップの位置にあった松江中学は何故か遅く起ち上がったと思う。

商業、工業、農林の職業中等学校が学園の民主化を求めて、早くも起ち上っていた。私はこの時の記憶はあまり無い。まだ色々と思ひ出は尽きないが長くなるので筆を省く。

戦後生まれの人達が日本の中堅となつている現在、私らの世代（昭和ひとけた世代）は、戦時から戦後にかけての記録を残す義務を負っていると思うので、様々な角度からの想いを集めて後世に残そうではありませんか。



- *** 七月行事予定
- ◆10日（日）福祉弁当
- ◆14日（木）フォークダンス教室
- ◆17日（日）八幡宮祭典（十七夜）

午前九時〜 相撲大会
午後三時〜 子供みこし

午後三時〜 田植ばやし

- ◆22日（金）連合自治会
- ◆23日（土）一般介護講習会（大森）
- ◆28日（木）胃がん検診
- ◆28日（木）ダイヤゾンボール教室
- *****

おしらせ

◎赤ちゃん おめでとう！

右原 中垣 大さん
一女さん
光裕ちゃん



◎大代公民館から

①先日寿会の方々に草刈り奉仕をして頂き、公民館周辺や広場は大変きれいになりました。厚く御礼申し上げます。

②先日婦人会コスモスグループさんに公民館花壇の草取りをして頂き、大変きれいになりました。厚く御礼申し上げます。

③ 大阪市 西川千枝子様より

金一封の御厚志を頂きました。厚く御礼申し上げます。